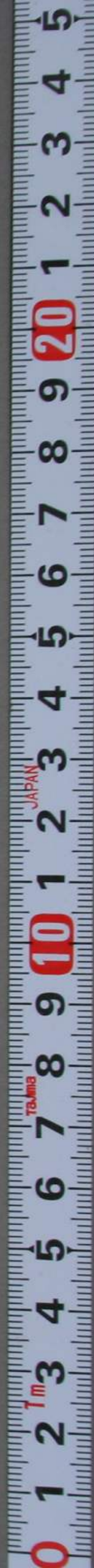


萬世秘笈枕 上中下

樂天堂

78
3560



西本

7 8
3560
卷



万世秘事枕巻之上目録

一 みるむ小漏斗がりに湯と通す法 五丁目ヲ

一 蓑雲蓑と外多類除愛得是と秘法 同ウ

一 泉多此魚と病付す久く表す法 六丁目ヲ

一 山系記の心一色か次と本まきせか

色と皆又物技心ゆくも色と自由と秘法 同ウ

一 道と病て竹と喫ふ法

八丁目ヲ

49-1912

一 額の縁等と免れ切指

八丁目ウ

一 香袖と不引懐中より法

九丁目ヲ

一 小児瘡疹に救熱と疔おしむる大事

同

一 身乃穿えさるゝと治と

同ウ

一 一より十六まゝくのれとなすゝるま

十丁目ヲ

一 基盤のよれ石と免工更

同ウ

一 頭痛一代救らる奇方

大依小惠日寺の秘方

十二丁目ヲ

一 妻甚喜慶切と彩とこの下く番と法と法

十三丁目

一 枕心なりしよまゝの火ととせし油及し次

一 地震亦しと消と火の用心能とり指

同ウ

一 石碑の文字消くよめかたたと讀法

車目ヲ

一 男女髪小氣付と指と除法

同ウ

一 ただこの餅と昂たし醒法

十五丁目ヲ

一 川憲取子一夜治と二年治及ら張松秘方

同

一 途中少く提燈の蠟燭をさしし所を扱法 十五目

一 小児さうきたしをせり法 十六目

一 合瘡乃行氣と治り方秘法 同

一 三三三年中生少く貯法 十七目

一 喜風紙紙年中たふ法 同

一 珊瑚珠掛秘傳 同

一 合橋年中貯法 十八目

一 薔子と貯法 十九目

一 梨子と貯法 同

一 菱月酒の味かきぬ仕法 同

一 菱月糊は虫のわぬ法 二十目

一 沖なりは焼ととのり法 同

一 合箔は煤と灰と法 同

一 土系紙のそりやと速とじり法 同

七

- 一 去茶瓶底よじ色出ぬ法廿二目ヲ
- 一 光つよき紙燭の扱同
- 一 蘇子と魚よりうらよむる漬同ウ
- 一 酒の祓よりとぬ法廿二目ヲ
- 一 下血の妙薬同ウ
- 一 簀刺きく口のきくをうらとぬ法同
- 一 灸のいかりぬとをやくいかりを法廿二目ヲ

- 一 きせふやめてはまりらと通す同
- 一 湯のくもりらと魔法同ウ
- 一 洞のくもりらと魔法廿二目ヲ
- 一 汁皮肉へ物ぬき出すと扱同
- 一 目よはらりの入らと出法同ウ
- 一 小瘡れ金より痕をうらと治廿二目ヲ

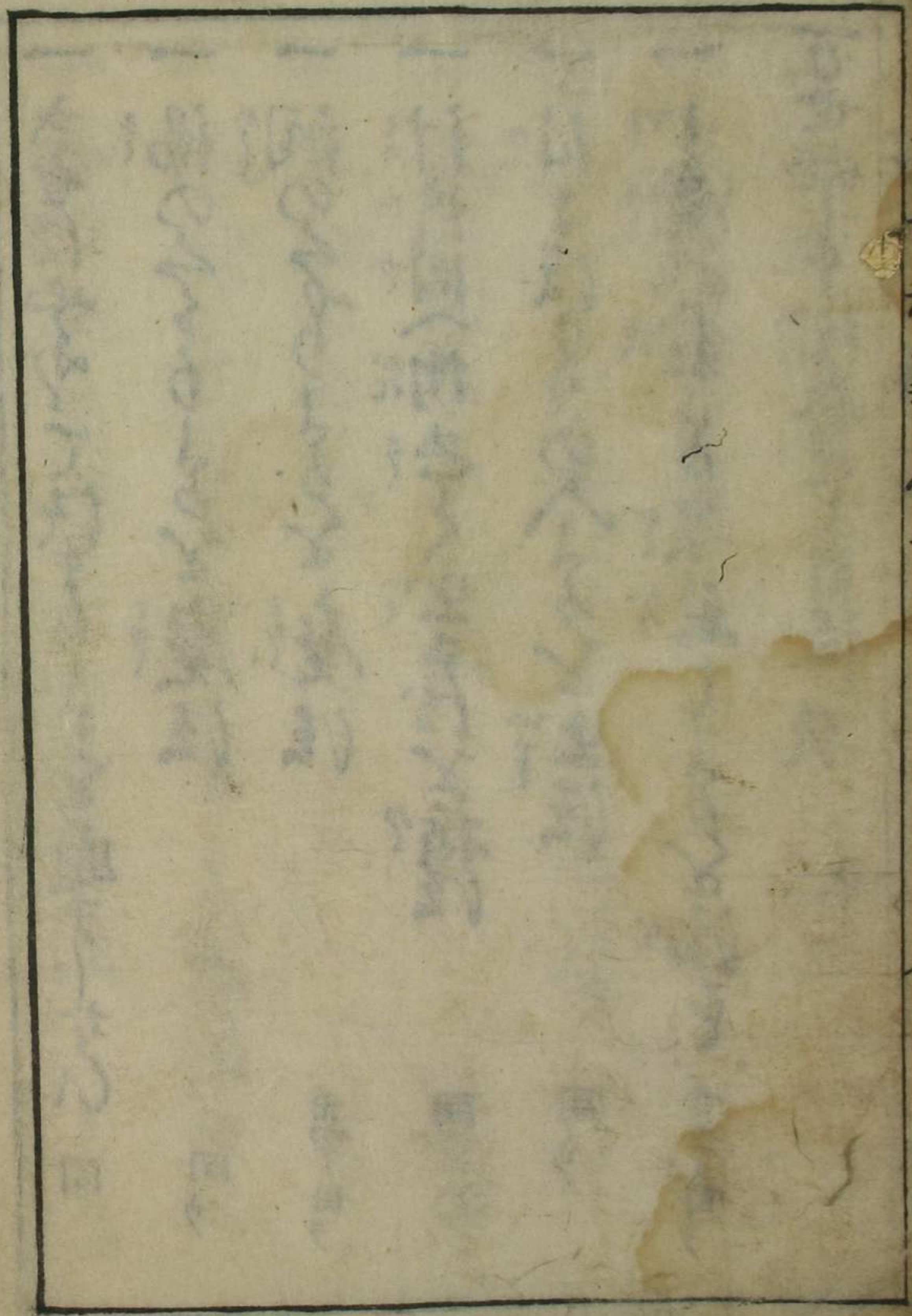
万世秘事枕卷之上目録 終

万世秘事枕卷之上

万世秘事、枕巻之上

きせはふ漏斗なり湯と通す法

一きせはふ湯と通し、たき耐漏斗なくも、
茶碗の湯と入、其湯ときせはふの大皿あく
まきひく。吸口は方へ流し出さ耐がう。
その後大皿をうけひけて、茶碗の湯と
はけく。吸口の方とさげ懸ハ。ちやん人の



湯乃こくも吸口へ
 なる色出ふたなり。
 とびし根湯みく
 考へ



萱云萱とわが類珍皮好色は湯

秘法

一てふ小麦とわし炒粉めしてさるる粉

して同へ。ぬげかろふ時悪く鳥か
 小ぶなり。但子らの時興魚

泉多此魚は宿付す久く煮る法

一たき土乃泉多ハ石灰の氣出く
 臭かなる次煩く入りのなり 桐木の
 生なりと二寸四方ほどよ削るに田
 へ盛べし。臭よかもやまひつゝず。年

久しくやいをひても臭の海なこ
つぶるるす

山菜花は色一色からく木よさるせな
かゝ色と留又折枝花めくも色とり也

小留法

一山菜花たより紅一色に整ふるをど取く白
花又斑文花入なるに志しきよ火入

硫黄とたき薫る。白くなるを又花入候
文よさるよ火入よ右の硫黄とよと其上へ椽の尻小
孔よあき右はれ縫うむくもあ火入よよとりかきせ
候と右の縫うへとりまよあく

望れ挿根よあきよ色し
白ゆくなるなり。又白計よ
さるふき火入り山菜薫る也





道に及ぶ竹と味は法

一七間もむらぶる有竹と手前の地へ一
 とんとあつし極留りて竹身も也十間
 ゆくも女らゆくも教よせんともふりて
 西ととも一尺にみす深さ三尺計小据て
 小馬に書きとせやく右の穴へ一といよ
 書きとせやく右の穴へ一といよ
 書きとせやく右の穴へ一といよ

扱あささととかり

額がく乃の縁えん等とうととめめれれ切き換か

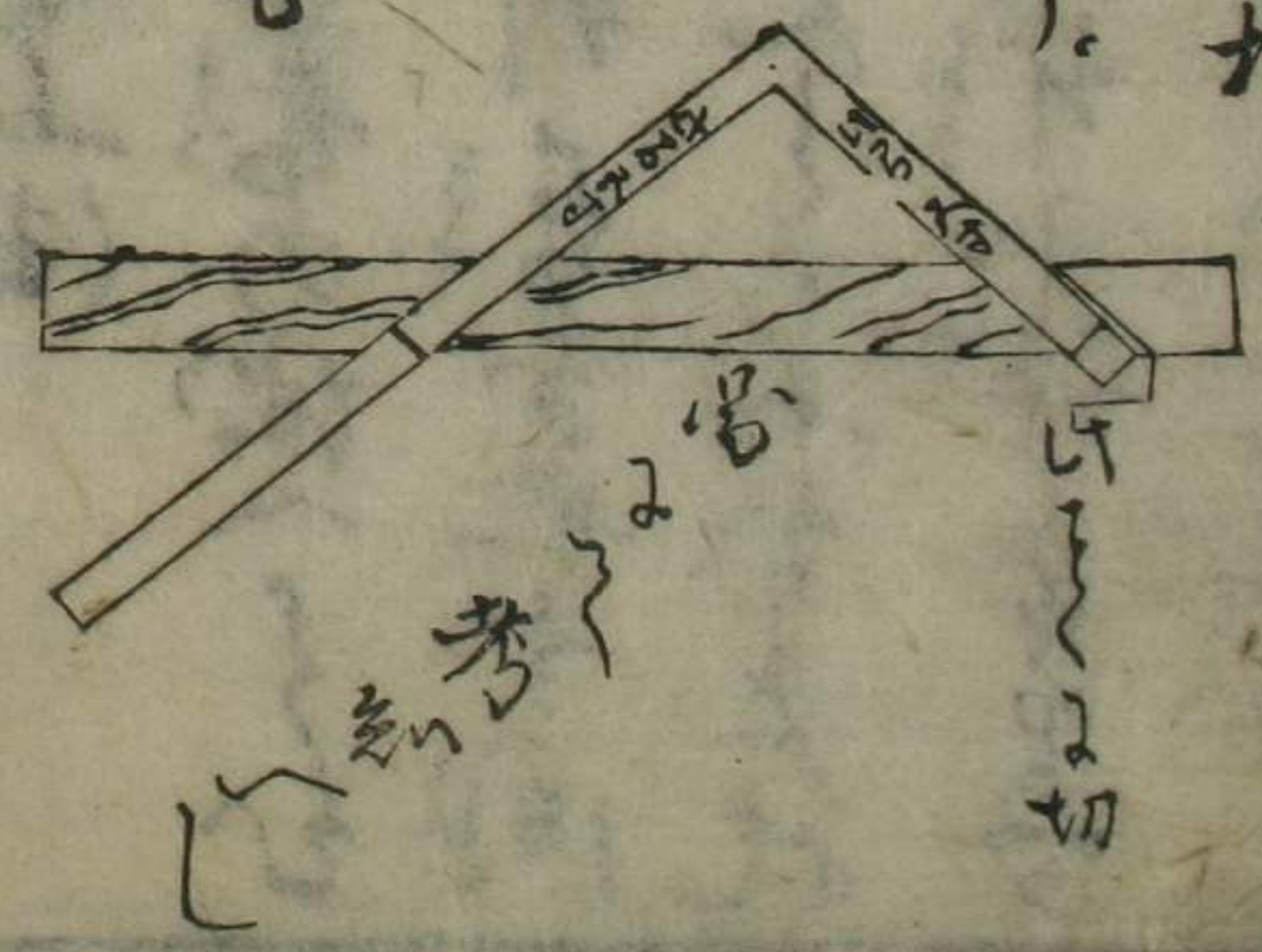
一額がくののああちちななととああととままりり。

とと免めんれれ形かたななににままはは。

曲まが尺ぶちああくくけけいいととままりり。

ししめめ能よく合あななをを何なにああくくも

とと免めんとと切きりりはは法ほうとと用もちへへ。



香か木きとと不ふ乃の懐くわい中ちゆうのの法ほう

香か木きとと不ふ乃の懐くわい中ちゆうせせんんとと忌いりり小こ梅ばいををととに

かかりりききりりのの時とき本もとよりより丸まるくく歪よこ又また米こめ糊かじああくく

合あ箔はくとと二に三さん尺ぶち人ひとははけけ並ならぶぶ香か合あななととれ

類るい又また入い懐くわい中ちゆうとと一いいいももぐぐもも透い香かううう

せせとと生なれれとと。

小兒せうじ痘疹とうしんのの癩れん癩れんとと怪かいししるる大だい事じ

一 小兒の疥癩は、傷をとも瘰癧をとも。
一 知也かきまら多し。怪はあらん。心は頭の後より骨あり。其下は肺あり。必瘰癧瘡なること知るべし。右は肺は心より八脈を紀と也。

耳乃穿へらるを治す

一 治聾耳湯

大秘方

耳の毒き人より。蜂巣とつひのぞく也。用子時耳葉と口小入かえかえ。右の真葉と用へし。毒き人より。

一 あり十六まきこれ札とがらるす

一 札十六枚よ。一あり十六まで書付し。げ札とて投じ。口通小なり。何方よりかそへとも。投此救三十口小成板よ。な。あふなり。書法

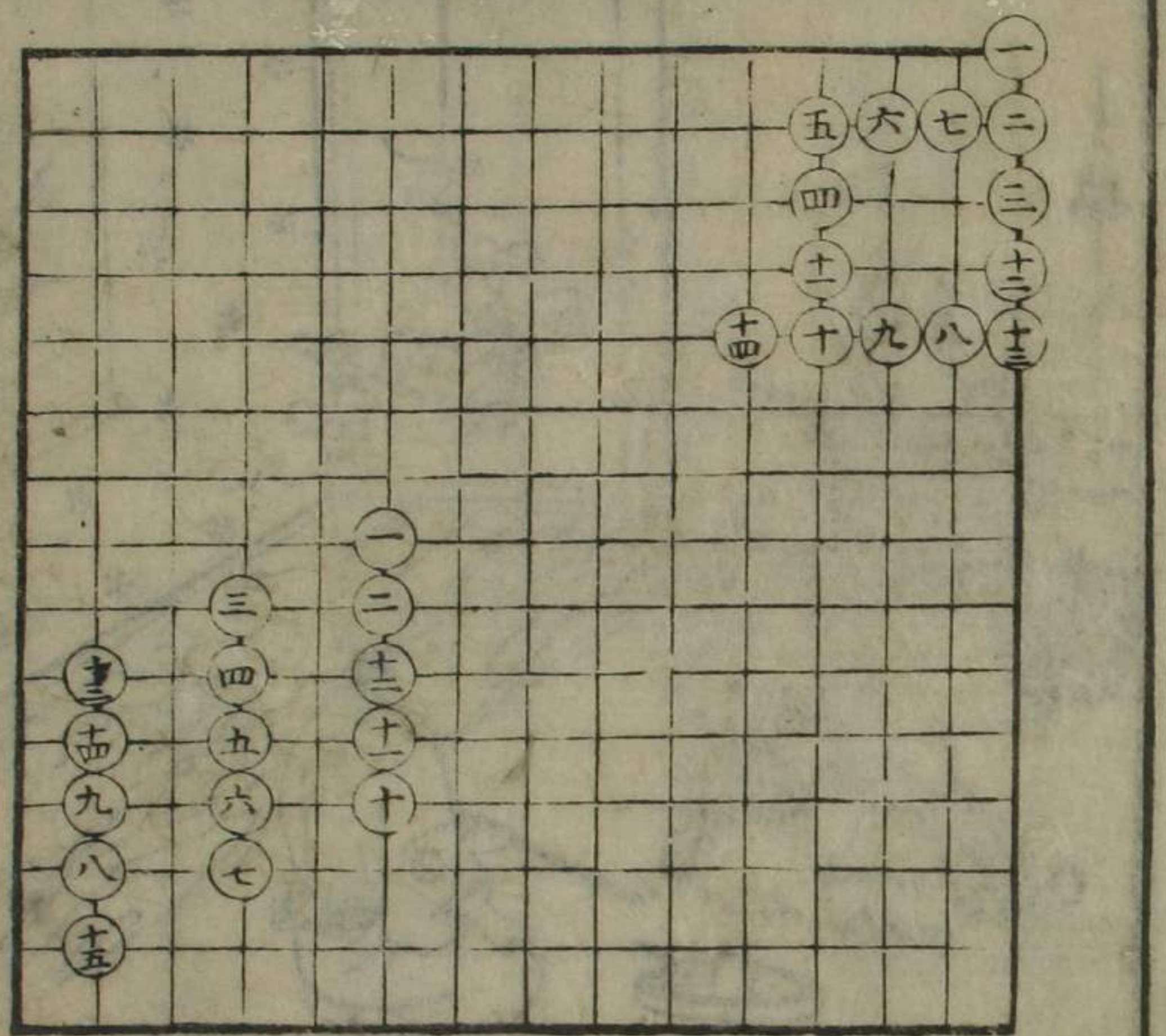
万世必書

たのぼろご

けい	な	し	た
六	一	十二	十五
九	七	四	十
十六	三	五	八
三	十	十一	十三

わくわくならぬ
 だんごころあつ
 ろうりかきく
 字教二十回ひま也

碁盤のうへの石とよかす



碁のうへ碁盤
 よは石とよかす
 筋と遠に筋へ
 さるねよとるす
 けいぼろ
 二所あり



頭痛一代癩する奇方

土佐國東日寺の秘方

一お病ふ頭痛有てハ奇方秘方よ度くたへ

その方り。正極治一がう。此方秘方きり

とどを夜よ出さ

大英 入り虚弱の人よハ本減酒よ浸さ

丁子 五分 齒帰 其酒よ浸さ

川芎 其酒よ浸さ 芍薬 其酒よ浸さ

右細末一。一匙^{てい}引^ひて古茶^{こちや}と糞^{くそ}一。食後^{しょくご}ふ具^ぐ茶^{ちや}少^{すく}く用^{もち}へ一。用^{もち}子^こ時^{とき}後^ご若^わ法^{ぽう}法^{ぽう}く志^しりく。
 物^{もの}よりりやを志^しりく眠^ね長^{なが}へ一。三色^{さんしき}りりり
 小^{せう}便^{べん}赤^{あか}く通^{とほ}さる也^{なり}。一^い代^{だい}治^ぢ痛^うと活^{くわ}さる事^{こと}。
 妙^{めう}也^{なり}
 去^と依^よ國^{こく}惠^ゑ日^{にち}寺^じより出^{いで}る方^{かた}引^ひて。口^{くち}は
 か^かれ^れな^なも^も妙^{めう}方^{かた}なり

善^{ぜん}甚^{じん}若^{わく}若^{わく}麦^{ばく}切^{せつ}と新^{しん}てはれあ^あく香^{かう}紙^し

能^{のう}さる^{さる}法^{ぽう}

一^い善^{ぜん}甚^{じん}若^{わく}若^{わく}麦^{ばく}を^をは^は古^こく^く風^{ふう}味^み煎^{せん}一。毫^ごを^を能^{のう}さる^{さる}
 山^{さん}は。善^{ぜん}ハ薯^{じゆ}苳^{じゆ}の^の葉^{えつ}と揉^{もみ}く汁^{じゆ}と絞^{しぼ}つ。汁^{じゆ}は
 多^たく^く変^{へん}く粉^{こな}と粉^{こな}を^を打^{うち}へ一。甚^{じん}を^を研^{けん}皮^{かわ}を
 じ^じま^ま核^{かく}と去^ぞて。さ^さら^らら^ら引^ひく能^{のう}さる^{さる}て。あ^あひ^ひ
 ふ^ふま^まを^をへ一。色^{いろ}く^く香^{かう}紙^しを^をは^はの^のあ^あく^くに^にぬ^ぬかり

燈心とうしんなすなすふふささのの火ひととををととししてて油あぶら

をを入いれれてて消きええるる火ひのの用もち心しん紙かみをを取とりり

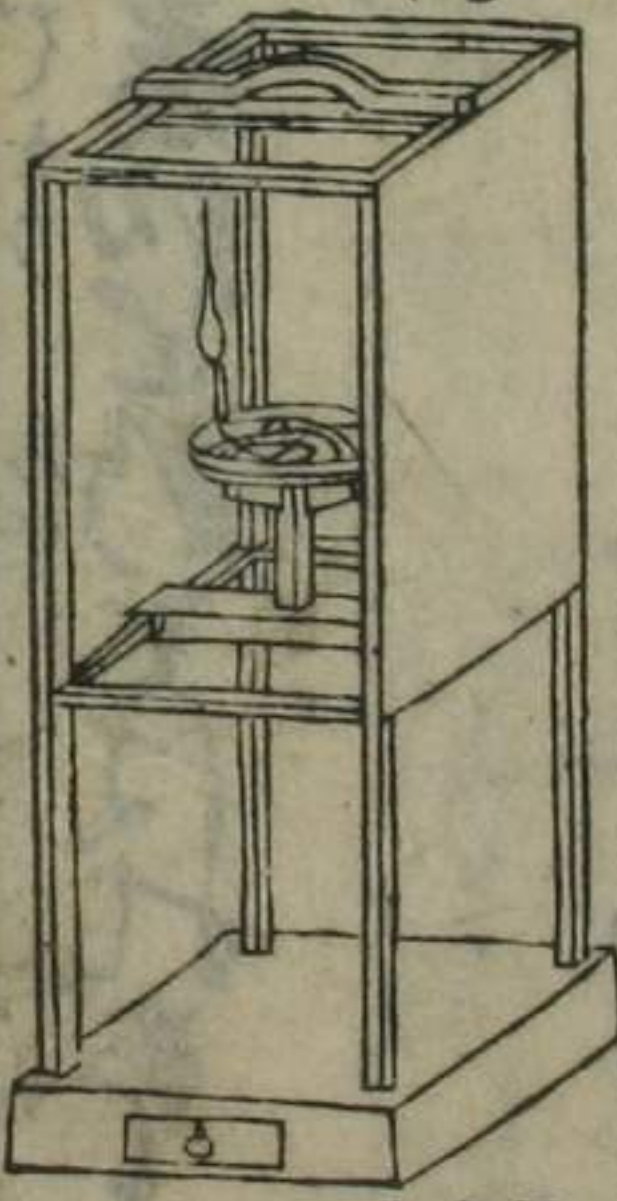
一いち茶ちや中ちゆう燈とうとと並ならはは油あぶら四よ八はち分ぶんををとと油あぶらとと入いれれてて

ななすなす紙かみとと 煎あののととにに先まとと油あぶら四よ八はち分ぶんのの中ちゆう

入いれれてて消きええるる火ひのの用もち心しん紙かみをを取とりり

燈とうととををととししてて

火ひのの用もち心しん紙かみをを取とりり



けけのの 用もち心しん紙かみをを取とりり

地震ちゆうしんおおゆゆくくももいいははいい事ことななくく油あぶらのの減へるる長なががが

石碑いしひのの文字もじ消きへへるるかからら紙かみ読よみみ法ぽう

一いち石いし碑ひのの文字もじ消きへへるるかからら紙かみとと油あぶらととすす

ははららすす紙かみとと油あぶらととすすははららすす

ししてて又また石いし碑ひのの文字もじ消きへへるるかからら紙かみとと油あぶらととすす

ははららすす紙かみとと油あぶらととすすははららすす

又また字じとと油あぶらととすすははららすす

男女髪小氣つまきると除法おんによよかて ねづきこ

一髪小氣はまきりたる髪かきまきりての也。まき
 と二度はけけらるは紙の昆布と多し浸す
 けと紙をり出さず時其らへ紙をはけ髪
 とゆふやくながくつけ所へ。二枚を
 はけくかゆひは二度まきりて家
 事妙也

たゞこの解と仰文よ解法ただここの かいと おうぶんよ かいほう

一相ぶ系に解らるも。多く生味醬とが
 掌へ。暫時は治すと

一髪小氣はまきりての也。まき
 と二度はけけらるは紙の昆布と多し浸す

張括の秘傳はりくわくの ひでん

一髪小氣の内は張く。荏の油とつくと雷れ
 少分。厚のころはあぶらも。おまじり。

喜風 越風 年中 たまふ法

一喜風 少くもあさうやくも。口にいよ刻
塩 飯 ぬを干。一日 蒸く。その後 新酒の
樽よ 洗え。液あ 免と けち。年中 かまへん。
内ふれ 生乃 しく。孫 安らもの也

珊瑚珠 振振 秘傳

きうり ほう 二 光の珠 いろ ぼん

右せ 免うろ しく 丸。よと 砥石
少く 磨かると。宛を 正ま せし

金橘 年中 貯ふ法

一 麻 糲よ ませく。壺よ 入 口を 液 垂
かり。入 用 せ 節 ぬい け。孫 同く
たり。風 の つら なる 根よ しく 壺 也



茄子と貯み法

一秋茄子と枝と少一付く切を董よ糸
 と掛け。ぬいのをれぬのかららるをよよく
 掘て竹とこく。右の茄子を色合ざる後よ
 洗ふ。上といまの出ざる根よゆるし。並一。根よ
 年ましく能たもり也

茄子と貯み法

一 毒利子 七夜 かりと。我のからから前よ
 五。赤公 ぬく 厚ぬく 日ふりて ぬのから
 ざらぬよ。庭の内よ 砂よ 埋 庭 べー 樽 年まで
 生のさくくも ぬ

一 麦酒の味 糖 ぬは ぬ

一 麦酒の味 酸 ぬやう。酒 一升の 酒
 樽の ぬすみ ぬつ 入 庭 ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ

一 麦酒の味 糖 ぬは ぬ

一 麦酒の味 糖 ぬは ぬ
 一 麦酒の味 酸 ぬやう。酒 一升の 酒
 樽の ぬすみ ぬつ 入 庭 ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ

一 焼の油 ぬか かり 対 油 ぬ ぬ 焼 ぬ ぬ
 せん ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ
 対 汁 ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ

金箔の煤と落ま法

一 佛像厨風をくく金箔の煤と落まよひ。
 酒の糟と水中く解奠し。熱き附よそく
 及しおとろりき湯とかけへし。箔を換
 せと煤のこころ落る也

土茶瓶の漏と子速としる法

一 土茶瓶のりりよひ子速とまこ灰とかけへし

一 土茶瓶のりりよひ子速とまこ灰とかけへし

同底よ破出ぬ仕振

一 土茶瓶のりりよひ子速とまこ灰とかけへし

光つよき紙燭の拵振

一 紙と筆の油めくも。さむかめくもまじく
 川ぬきよひし紙をゆき。先めく油と少

酒の味留りなり

下血の妙薬

一 枳殻ヒキよ下血ゲチカウをハ常ヒコク々ヒコク樞實キウジツと食クべ〜久キウ
しておのつ〜金イロ妙キウなり

筭利ソクリ立タテく口クチのノきキをヲとト扱ヤク法ホウ

一 蠶スのノ皮カ赤アカとんトぼボうウのノ皮カ救キウ等トウ分ブンをヲ用ヨウひヒて
糊ワシよシ〜シせセ付ツべ〜ツ妙キウ也ヤとトけケよヨくク立タて

口クチきキらラ却ケツてテうウ〜ウのノ方カタへヘちチうウ〜ウのノ方カタへヘ
付ツべ〜ツ付ツらラ方カタへヘをヲ用ヨウひヒてセなり

灸シウのノいイ不フつツぬヌとト灸シウくクいイ不フつツ法ホウ

一 何ナニれレ灸シウ〜シウてテぬヌいイ不フつツらラよヨハハ氣キとト飯イハ糊コよヨ
ホ〜ホまマせセあア〜ア付ツべ〜ツをヲ用ヨウひヒてセなり

まマをヲ用ヨウひヒてセはハるル〜ルとト適テキすス〜スなり

一 まマをヲ用ヨウひヒてセはハるル〜ルとト始シめメ〜メなり

せびとたのよめくらのらたよ垂くたのよを
 たごこつさくたのよめくのはへ。右のよ
 と背へく次。叔火と吸付附右のよれ大指小
 く。夜のはきも海志くかえく大と背へ。
 いろねはまるくろやめても通る妙也
 湯のくろりきると魔法
 一湯くろりくと魔法よ。毛氈のくろりきると魔法

てみかくべ。くろりきると魔法よ。毛氈のくろりきると魔法
 洞のくろりきると魔法
 一をきんちろりとくろりきると魔法よ。毛氈のくろりきると魔法
 和らうなる紙よ。梅干の肉をほくしてとる
 べ。くろりきると魔法よ。毛氈のくろりきると魔法
 汁皮肉へ折込くおがふと魔法
 一者仁二の搗爛。車轂よある脂とくろりきると魔法

神と合汁のまゝらとへぬぐへ。忽出なり

目よほろの入らと出法

一眼中へ埃入らよハ。そのまき拵ゆくまがら

かろけて。唾と吐へ。はらと出なり。他は

へと具俵右のぐくまへ。津と嚙込て後ハ。

かくのびくくしてもと

小瘡の金する痕をくくると治と

一雞の糞白きをぬて雞子白やくとまけ

た。瘡の痕と去り妙也

万世秘事枕上卷之上 終

万世秘事枕巻之中目録

一 去花の去うましくゆるても大と通ふぬ法 五丁目

一 液し舟よふととれぬ法 同ウ

一 杞氣の人十六日の内よ心氣よかと奇法毎枕付

おとと法同く血塊と法と 六丁目

一 俄よ瘡と塗指指 七丁目

一 栢栢栢栢栢栢一切かたき本敷まけ物よ

万世秘事枕巻

Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including a large rectangular frame.

仕掛の秘傳

八丁目

一 婦人月日三十日ゆくも旅へ行く道中にて
鉄棒落さるる法

同ウ

一 男女陰風の生くる法

九丁目

一 小児軟啼と止る法

同ウ

一 長為人とこは免いたむと治る法

十丁目

一 蛇家内よ入る符

同

一 氣傷の治方

同

一 法多よ粘稿のつきらると治る法とくも考
いきゆに羽換せぬなり

十丁目

一 大部の衣身と自由に働大事

十一丁目

一 星調合の秘傳

同ウ

一 令小龜と付る法

十一丁目

一 腸板なりと瘻とちんねとよ仕掛

同ウ

一 大よ葉附く内の保表 十三丁目ウ

一 蕪蒜葱胡葱ホと食く口中臭を去る 同

止方 同

一 香煙の火は方 十四丁目

一 又方 同

一 又まろんちんとよわらふ法 同ウ

一 甜瓜年中貯極秘 十五丁目ヲ

一 硯の指板 同ウ

一 茶艾秘法 同

一 丁敷まぐか記書ゆふ口書れ仁板 十六丁目ヲ

一 口中臭の臭と去法 同ウ

一 淡と引はくて紙つまくる法 十七丁目ヲ

一 麻の葉はやくと再ぬけざる板を塗す法 同

一 万年漬漬の法 同ウ

一 青梅の漬物

十六丁目

一 子けんをさゆく死せんと救法

同ウ

一 茶盤の上よ石と一方よ十五の四方よ湯れ

一 ことくなくへ其内一方ゆく石と二の宛八の

一 血の救減る物よ見せり更

十九丁目

一 喉よ肺の外つゝまき骨まきく治方と用く

一 効なきとめく法

七丁目

一 秘傳薬子の搾物

七丁目

一 七の物つゞり見せり法

同

一 男女顔よはやと出―色と白なき法

同ウ

一 美諭類急よ魔法

七丁目

一 鶏の病と治る法

同

一 女の肉水虫のくまるとむじろ方

同

一 白味噌極秘方

同ウ

一 南東配（見まん）の方（ま） （このま）配（ま）と格別（くわくべつ）遠（とほ）の風味（ふうみ） （七三）

一 長崎田樂（ながさき）の仕振（しぶり） （同）

万世秘事枕巻之中目録終

万世秘事枕巻之中

七花（どげ）の去（き）うきくわるとも大（ひ）を通（とと）る法

一 七花（どげ）は去（き）うの世（よ）藍（あゐ）の紫（むらさ）と交（まじ）るわらべ

中（ちゆう）わらべも入（い）座（ざ） （ちゆう）きくして大（ひ）と

防（ぼう）なりたり （あゐ）の紫（むらさ）と交（まじ）るちと （そのま）の

七（しち）あく何（なに）も包（つつ）くやましく見（み）べ （大）

ことさぬり。大（ひ）とちよなり

一 氣の人十日の内は正氣はなと奇法
并 瓶付おとと法同く血塊と治す

一 掌ちひひる人よをたの業を計る用

一 瓶つさうち九分り用

一 血塊もち八分り用

代 赭石 三両 巴豆 三両 杏仁 三両

右版糊ゆく能かおんよ福中合をる武分り曉

一 番色の酒がよ用て。外具をわつくをせく祿

さうど一。ゆりの酒がより後々るべ一。一日よ

十度たりる。又お日やどり。間とお記て三

度用ふ。乳ちぢひ瓶つま血塊もに十日の内よ

平金さうど一

俄よ壁と塗板板

一 群るゆの俄よ客来あつて。急よな愛がしと極

よのよかりあり

婦人廿日二十日ゆくも強へ行くも強

めく鉄漿をさるる法

一人長途よおりにしき道中不自由なりし
宿めくもぐらと能はけ帰ふ宿まぐら宿る
仕扱へもぐらと能くつけもまぐらへ本漆を
べ。ほやまぐら。まぐら。宿る。宿る。妙也。

み倍子をもとるのまぐらへ分べ。漆まぐら
事なり。又鉄漿つまぐらで音歯と云分ても
わとより白くから歯あり。是は用て粉

男女陰風のまぐらを去方

一陰毛よまぐらまぐらまぐら茶多と云も
わとにめく。又まぐらまぐらの中判りなると云く
とろまぐらまぐらまぐらと云せんと云まぐら胡椒の

粉と水こを唾つばやくつままゆるる。一一ははひひゆくくを
事事妙妙也

小兒夜啼と止る法

一井一ののききよよわわふふ何何のの草くさゆゆもも揉もくく寢ね所ところ
乃乃下下よよ安安べべ。但但其其小小兒兒よよ毛毛とと知知ららせせととく
かかろろ色色。忽忽夜夜啼啼止止ももののかかり

長病人と治る方

一天一南南星星 鹿角鹿角 燒焼 黃柏黄柏 天花粉天花粉

右細末右一一等等分分ちちりりゆゆくく煎煎分分ちち。奇奇妙妙治治と

地家内入る符

一白佛言 かくのかくととくく書かくく根ねよよ送さよよととる
魚魚一一。其其家かよよ入い事し一一かかり

氣傷の治方

一一りり乾かんとと毒どく物ぶつとと食たくく一一らら氣きよよ唾つばふふとといい。

其^{その}雨^{あめ}より全^{ぜん}乾^{かん}くするものなり。惣^{そう}じて薪^{きん}は
 かまこしるふ。柚子^{ゆず}干^かて糞^{ふん}に用^{もち}べし。糞^{ふん}は
 ちる口^{くち}もさくはけべし。糞^{ふん}と法^{ほう}は
 法^{ほう}多^たに粘^{ねり}穢^せのつまらざる法^{ほう}也^{なり}
 多^たいたまじと相^あ換^かせぬ也^{なり}

一^い個^こ多^たなど死^し放^{ほう}さし棹^{さう}などめくぬる
 内^{うち}穢^せ穢^せよつとくさくさるがまじもの也^{なり}也^{なり}

免^{めん}灰^{かい}とんとあつ。胡桃^{くるも}の油^{あぶら}とまらしてこを
 洗^{せん}け。うゝは香^{かう}炉^ろの灰^{はい}とさうけ。一^い内^{うち}計^{けい}とて
 括^{くわ}めく括^{くわ}らるべし。まじとおつる也^{なり}

大^{だい}部^ぶの良^{りやう}身^みと自^じ由^{ゆう}に働^{はたら}大事^{だいじ}

一^い大^{だい}事^じの良^{りやう}身^みのあつらひめく志^しりる。或^{ある}ハ
 是^{こゝ}迄^{まで}と伺^{うかが}ひる。良^{りやう}身^み又^{また}迄^{まで}の良^{りやう}身^みや働^{はたら}き
 火^かと防^{ぼう}内^{うち}たの場^ばのごとくなる。方^{かた}力^{りき}とよめる也^{なり}

わど 塗く。板を白く磨み入る。漆
 ぬく蓋ともひわがけをよつて。漆の
 と葉をけぬく。色合能内。葉を
 とよ引る。

膠板なり。は漆とちんねる。は仕板

一 石灰 木石白く引ぬて。花して

雲母 武谷 是ハ不入とて。艶と出さまで也

白漆 二十文 ありとて。入あさめ。とけとひり

松脂 武合粉にて 荏の油 三合松葉を入せん

海薺 十五 少ぬく。中へ能く。漆して

右能く。煉合。若か。とち。少湯と入能かん

して。葉刷元。ぬく。中ぬる。の。と。へ。引。へ。七。文

引。と。う。後。の。大。ぬ。よ。は。さ。り。て。も。十。文。ぬ。年。ハ。能。小

換。せ。ぬ。なり

大よ薬洲をる時の保表

一 臺浴と歩行して大よ倦らる時たふ中の
敷めく股とかく結らるらう。相寝時
足とかが外へ。足と長く伸たるは

蕪蒜葱胡葱おと食し口中

臭氣甚きと止方

一本香一味粉めして齒よゆらと付く。滑して

まぐべー。臭去るめ也

香炉の火け方

一 香煙れ火を炭團少く火べー。こち方

胡桃の殻松菜二色能焼く。うきと糊を

かへん。修く日は干て用べー

又方

一 留炭 皮と去て粉めして三指り

定粉 三十斤 丹 三十斤 焙硝 三十斤

右版糊搗合から用一握をとりて一丸中
冬の日一日を有かり

又まらんらんと子わらうし法

一炭のと又ハ右炭のとりを並く火と
おかくをもちて火移て炭をいせり

池田炭粉 三拾斤 焙硝 三分

松煙 三斤 定粉 三斤 丹 三斤

右粉めて具まう利べー

胡椒年中貯極秘

一随分能大なり胡椒と蒂の方より取り
あつちを著しく穴とあけ其口より粉と
ニ夕布を入本灰と糝布分更と搗合を
かきい垣計外入はを里にて漬盆桶の中

口とらり。風入らぬ柄にして。六月ふはけし九月より
未出。一ツふべ。味換らりりなり。

硯のお指

一 菱の目古用。蒸よろを入。一日一軟硯と
浸ぬわけて乾し。箱よ入並べ。

茶艾秘法

一 薰陸 丹分 消腦 丹分

矢筈竹 煮ぬ他うハ皮と去心むりと粉ふと

麝香 一朱 沉香 毛

右粉めて艾一升と能りて右の茶と能更
十口なめて切艾のトく灸並べ。

但膏育中をわ社余の灸所も三社灸とべ。

丁敷をくちき書物よ小口書のは板

一 書物丁敷をくちき小口書はめくきよる

へ白紙と入小口と切抄。扱小口書として後白
紙とぬまきとるべし

口中鼻の臭と去法

一蓋知仁 十日 甘草 朴也

右二色粉ゆして。度く舌よ塗べし。吐出
だく。後中へ入るも。舌へくく

濃と引次して紙つくる法

一葛糊と引べし。紙つくるして色移るべし。

ら

麻乃あはし。とるを再ぬけ。ぎらう様を座す法

一麻のあはし。とる。紙と穴へ通し。ときたの

ぬけ。うあを紙扱のるへ入。込べし。再を

し。る。り。あ。又。あ。の。か。か。けて。あ。さ。り。ざ。り

又も紙扱と。ぬ。は。繕。ひ。て。穴。通。して。引

一、ゆ詰めと一方の勢れ次は、月ひ。おんえんうろあそ
みあるあそとあ方よりサ込べー

万年清漬の法

一、菜菔 百斤 塩 三升 麴 五升

砂 釜川砂の米粒をどろを洗く

右を砂は麴塩と合。大根等のどろ漬く。

右をりよこのどろをべー。一月より其中

まぐく用てう

青梅の漬法

一、六月二日二日比は、青梅と本より塩を

此方を井よ。塩八合入。煮てさる。梅と漬

三日置く。其汁と投。又右のとけりろと煮

く梅を入。口と結く色。煮て。用次身よ

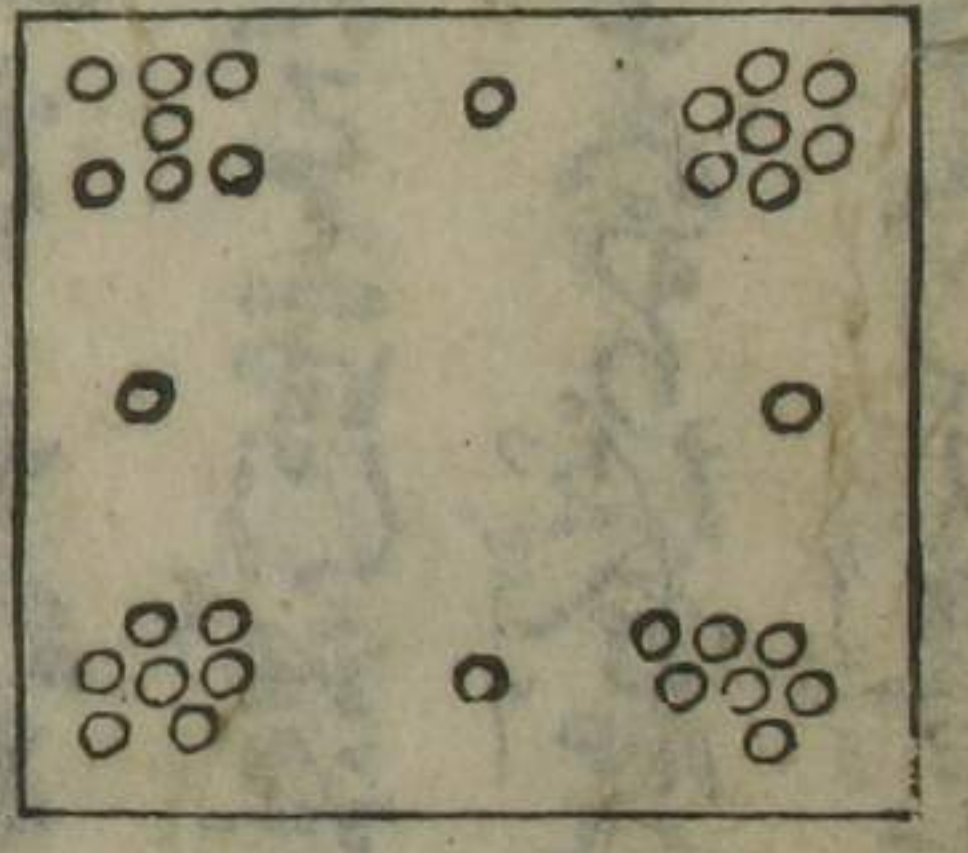
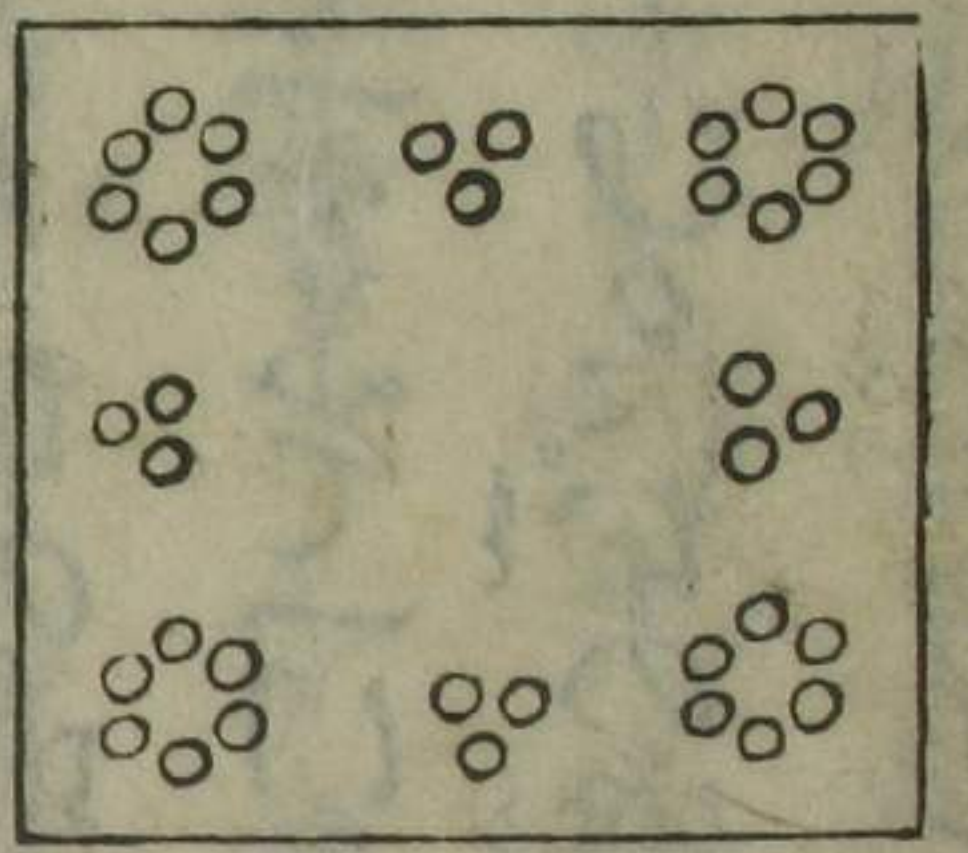
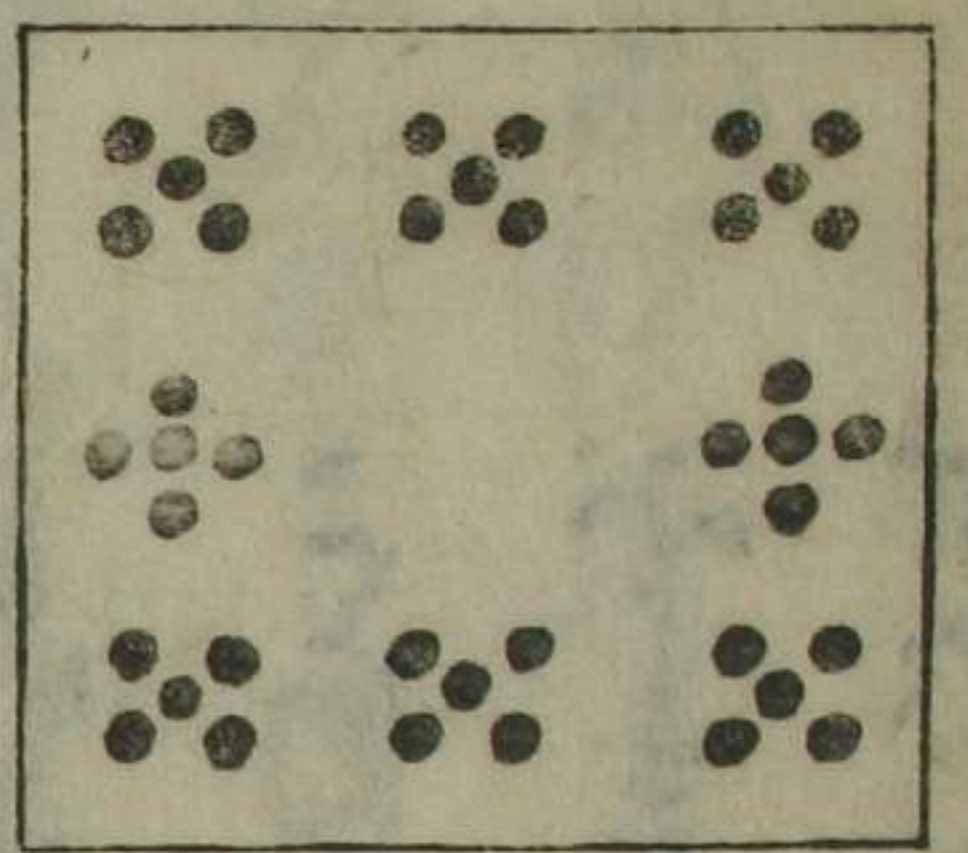
出かり

一子けんぢきやく死するを救法

一子けんぢきやく死するを救法
 けんぢきやくと云ふ事と云ふべし人と救なり能く
 常く心得べし。おけんぢきやくなるべし。かみく
 肩ささきと云ふ。破血と出べし。心刺つて
 昂たぬ救なり。又ち此の印急なる。唾付
 齒やく血と出さる。

○ 基督の上よふと一方よすめじく。一方よ

基督の上よふと一方よすめじく。一方よ
 湯のどくなく。其内一方やく石に宛
 びし。心と云ふ。客と客人よすめじく
 ども。もろなる。通一方よすめあり。又
 心と云ふ。心と云ふ。心と云ふ。客
 心と云ふ。心と云ふ。心と云ふ。客
 心と云ふ。心と云ふ。心と云ふ。客
 心と云ふ。心と云ふ。心と云ふ。客



又上の馬の
通の石を中
少して二つは
とり角へ入
合せし石は
いざりたを
ふまひむぢ
の十五なり

かくのてく一方めくす
りある石と下の馬の通
かまひむぢ

中老行づた
魚入合せて十五
やうり石は
とり足さる

二夜も石
八ひさる

右の馬はよく。碁盤のこけ石をいせはさる。客人
不審からと興と信とのかた

喉は肺の外つよき骨さく弦方を利て
勅なまさとぬく法

一候は骨少くも何あくもたちららふは。菜の浸物
とあしらく食せし絶。乃ここむ時ようし
ろむま匹とゆぢまり。よまさと見むはたらまら
ぬけるる物也。肺の外つよき骨かしくまら
よまひさる外めく。ゆげさるるのかり



秘傳栗子の貯法

一 毫のあゝ浸^ひ垂^りい^いま^ぐも水^{みづ}と^あま^を漬^ひ垂^り
 入^いり^ます^べー[。]芽^め出^いた^と腐^{くち}り^なす

このおつぎりせどはぐ奇法

一 松^{まつ}葉^はと^いう^もと^あら^うは^な裂^はれ^く生^な熟^{じゆく}天^{てん}
 け^い二^に色^{いろ}と^あら^うは^な目^め茶^{ちや}を^いれ^てお^して[。]
 り^りか^から^なぬ[。]お^して[。]お^して[。]

乃色はくならづき免らる二夜もをたつこ免
足に。もがもあひなり

男女教ははもと出ー色と白なり方

一麦教は蕎麦の粉と等なるは皮袋に入ると
と。ほろやうらふ布をきめて色あわすー

依艶と出ー色と白と

玄倫類急は魔法

一えんちう類三の具は。点は魔法たきくは。磁の
粉と酢やく海ぶくべー。とやーてむくなく。
り。もりにけなく。一遍やく見事なる。とくを
久ーく。り。り。り。又油を。海みる。基。り。

鶏の病と治るる法

一鶏病あるは。胡麻の油と灌べー。湯金を。ゆ。也
子の内。ち。虫の。ち。と。し。又。方

一子の内妻スなまシ六出シ常事シあり。終シ年シ
久シ一シ三シ陳皮シと火シは焼シく蒸シべシ一シ考妙シり
治シと。尚シ茶シ少シく蒸シくもシり

白味噌極秘方

一 濃白の糟シ 米斗シ 大豆シ 五升シ

塩シ 五升七合シ 糴シ 六升但シり糴シがシ八シ升シ

右の三を能シつシ三合シ日救シ久シくシかなシりシどシうシ

とやつシ三升シ取シ一シいシにシまシぐシ蒸シくもシ換シらシうシ
なく。魚シ汁シ又シは白シかなシ。たシうシとシみシ六シ升シハ味シ弱シと
貯シせシるシ也シ

南東酢シの方シ け酢シの酢シと梅シ刺シ透シひシ風味シり

一 銀杏シ 皮シと去シ去シ心シ 酒シ 五升シ 酢シ 五升シ

水シ 五升シ

右合シてシ煮シよシ入シ米シ半シ中シもシ一シ年シ少シくもシ酢シよシ

かりすく^{とく}酒也^そ酢^すは^{から}成て^そ薬^りは^ら用^ら味^みを^とう

長傳^{ながでん}回^{わい}系^{けい}の^し法^{ぽう}

一^い豆^{まめ}膏^{こう}は^く胡^こ桃^{とう}仁^{にん}と^とり^てわ^を付^け焙^{ばい}く[。]

膏^{こう}は^りかり^て出^いと^味を^とう

万世秘事抄中 洗

万世秘事抄卷之个目錄

一^い梅^{うめ}花^{はな}折^を枝^{えだ}年^{ねん}中^{ちゆう}財^{ざい}法^{ぽう} 五丁目ヲ

一^い大^{だい}便^{べん}の^急か^りと^しむ^じ法^{ぽう} 同ウ

一^い疔^{ぢり}と^わき^二度^{ふた}生^ませ^らる^法 六丁目ヲ

一^い白^{しろ}梅^{うめ}の^毛玉^{たま}梅^{うめ}と^さう^とり^方 同ウ

一^い虫^{むし}牙^が痛^{いた}黄^{わう}丹^{たん}を^と出^いと^痛と^しむ^じ方^{ぽう} 七丁目ヲ

一^い樹^{じゆ}木^{ぼく}と^蛇蛭^{しゆ}生^まじ^らう^と去^さ法^{ぽう} 八丁目ヲ

一 大木と柱とく松と法

八丁目ヲ

一 懐中とふぐと板提焼うら松

同ウ

一 写物とさるに焼の光と能と法

十丁目ヲ

一 冬月とあごこかこぬ法

同ウ

一 切落し方指と接法

同

一 白牡丹のさーとぬ法

十丁目ヲ

一 顔と足と膝とかとと法

同

一 疣のわらぬ法

十丁目ヲ

一 松の枯と活と法

同

一 大酒の何と保費毎酒と酔ぬ法

同ウ

一 魚毒酒毒と清業

十丁目ヲ

一 人馬と合の方

同

一 癬瘡と生本へうつと呪

十丁目ヲ

一 雪中と往來とる用心

同ウ

一 瓶におそめく神符せんぷ 十五丁目ヲ

一 神實しんじつのたりやこころを多おほくくすむる法 同ウ

一 令ま瘡そうよ地蜈蚣ひひらぐでの付つきらるを除のぞく法 十六丁目ヲ

一 酸漿子かろうづまたくまへ板 同ウ

一 脱肛だつこうの入湯ようそう板い秘傳ひでん 同

一 衄血しゅくけつをとむひふやうどなる 十七丁目ヲ

一 表具ひょうぐの糊のりかおんりまをまか法 同ウ

一 そよすめんそよめんの業わざ 同

一 旅蚊帳たびかやの法 六丁目ヲ

一 虫むし蟻あひの尻しつよあるおつる板 同ウ

一 痘疹たうしんせよもむぶさうけをささり方 十九丁目ヲ

一 蚊かを火ひけ方 同ウ

一 臭たれるり紙かみゆくあしあし板 同

一 秘傳ひでん淡紙たんしけあしあし板 二十丁目ウ

万世必書

一 化痰膏と子痰まりの方 ケタンカウ 子痰 たん まりの 方 六丁目ヲ

一 龍氣庭とあぶらとあじろ法 リウキテイ と あぶら と あじろ 法 同ウ

一 泉石の薬れ病と治する法 イゼン 石 の 薬 れ 病 と 治 する 法 六丁目ウ

一 如神目洗系秘方 ニョウジン 目 洗 系 秘 方 同

一 呪逆二三日も出く止るるを治する法 ジュ 逆 二 三 日 も 出 く 止 る る を 治 する 法 六三丁目ウ

一 物類と血れ付らるを洗ぐて治法 モノ 類 と 血 れ 付 ら る を 洗 ぐ て 治 法 同

一 一切箱敷張貫細工仕振 イ 切 箱 敷 張 貫 細 工 仕 振 六丁目ヲ

一 夏月氷とを中たぐく振法 ナツ 月 氷 と を 中 た ぐ く 振 法 但 者 凍 み を け 法 と 用 六五丁目ヲ

一 竹筒登と後測より三日のまて生か貯法 タケ 筒 登 と 後 測 より 三 日 の ま て 生 か 貯 法 六丁目ヲ

一 歌かぶた二百枚と内一枚人ぬるを目と付せ
重湯かこゆるよ先の人よ切ませるを扱ふ
前よりゆきとこと事 六五丁目ウ

万世秘事枕巻之下目録 終

万世秘事枕巻之下

四

万世秘事 枕卷之下

梅花折枝年仲野法

一極上梅酢 一升 塩 八合

右の酢と壺へ入塩と入き。塩の壺の底

沈かり。梅の赤ハ紅白八重一重とをよ。味

或ハいまも用たりと。枝ながく切て。沈し方塩

さ。梅酢の花のうまきわがる。極よ多入へ。

Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including the characters '梅花折枝'.

風の入る格は蓋を飾りて人の通る穢
かりおよせしむ。蓋を蓋て用事対らぬぐら
しきぎく。花治へ入る花用て。蓋の対し
遠よりなり。蓋のせんがごとく

● 大便の意かりととしむる方

一 大便をぬきしむる事あり。その意を
ととしむる事あり。その意を

一 痔と一柱をくさへ。いり格は意かりと
としむるなり

● 疔とぬきしむる法

一 疔出来ぬ其上一灸と三柱と。灸て疔糸より
おきわたりしむる事あり。灸て灸て灸て灸て
たかた其灸と度より入る。二五日の内に灸て灸て

竹筒を灸て灸て灸て灸て二十日おまて灸て

貯法

一 霜たるとハみ月と旬は尻尻の海は法も能く大さるる
 筈と倒又井のあきるととま〜皮目より水氣入
 る物よぼりきび魚〜。六月中はほふよらも換だ
 白梅は花黒梅よさうすの方
 一 若練の樹のとよ。白梅の枝と搦とま〜
 花開く色黒〜



虫牙痛者即な虫と出痛と止叙方

一虫牙の外後いんむさげ湯のどく。耳はあつる

と戸と紙少く拵。耳はあて。よ鹽はふと入其申

へ善砥石と漬。其とよ善石とよく焼く。並進此

根とのせ。蒸へ。虫耳より出る。む煙喉まく

いころは出る。其しり下の

みだらうむひの也



こま耳あつる

け湯のどくしてさぶへ。虫出へん。いんむさげ

いんむさげ。品はよ治も。二度後叙方

樹木は蛇蝎生べらると云方

一蚕の糞と木の根は埋へ。恙虫さる也

大木と極久く拵る法

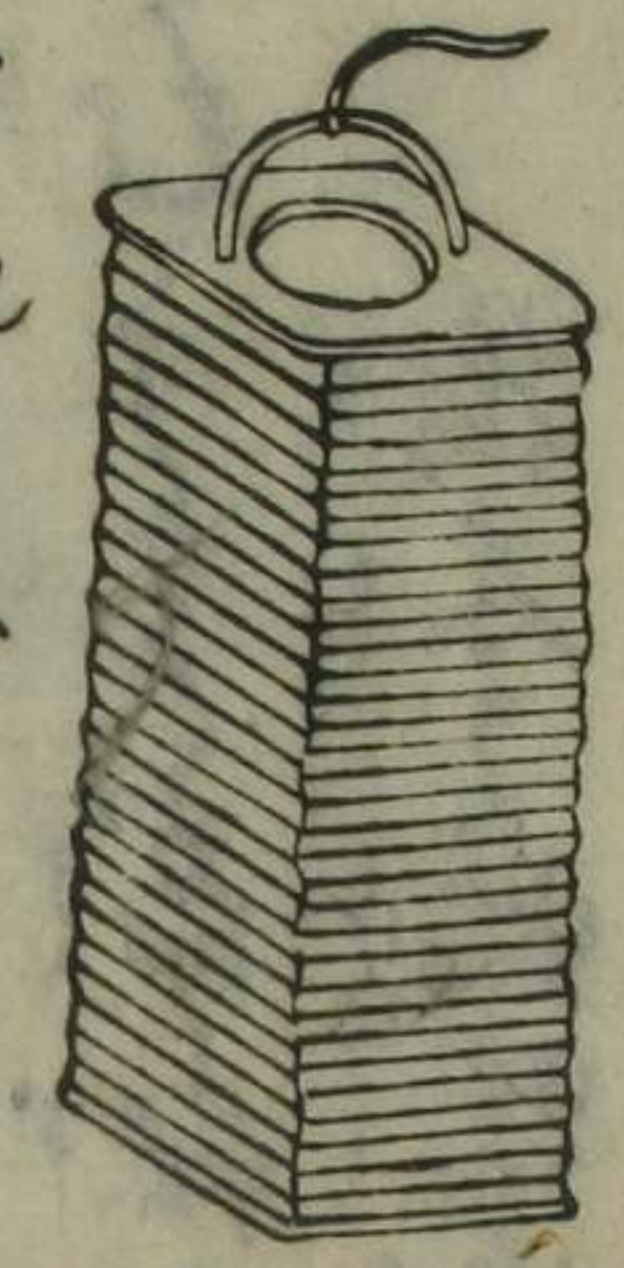
一大木と極かゆりも。先み六ヶ月も前より。

木の根と拵り。産く板拵かゆり時執り

酒の粕をうへに、吏根のあふ通へ厚くは
 浦て柱へ。能くはくそのなり

懐申とらふと板提提板板

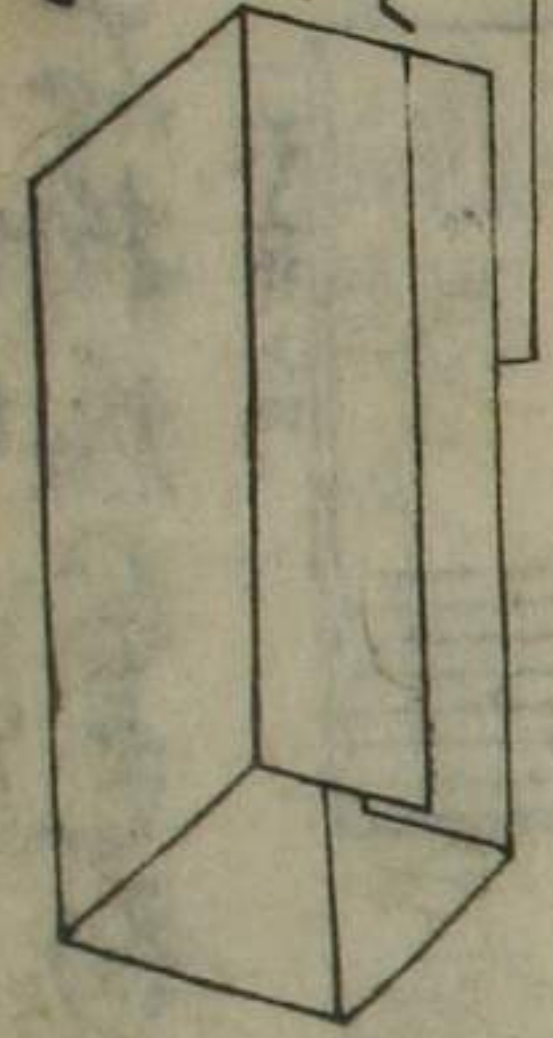
一此提提はとれうと板よなり。懐申とらふ



出来しる場かくのびと。是
 紙むかりやうとる也。あつて
 かりうとる出するなり

提提の家は馬並板板

け場のそく
 け場の所
 尾と
 たま



提提のどろ板板

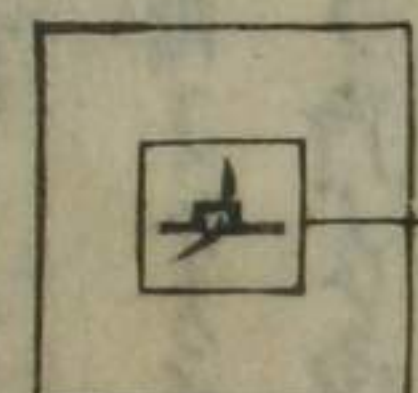


紙細子也

け場のそく
 たまおふなり



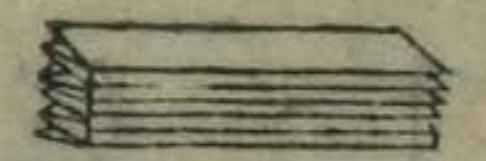
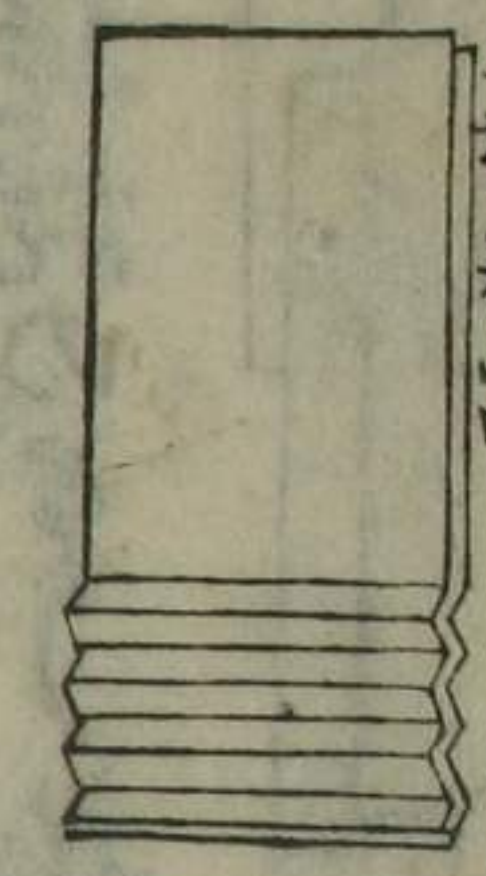
提提のどろ板板
 うと板相中も
 又うとまわつた
 やくも



大まうせわの
 け下の家板あくのびと。か
 けかうとまわつた。うと火
 提提のどろ板板
 けかうとまわつた。か
 本とまわつた。か
 本とまわつた。か
 本とまわつた。か
 本とまわつた。か

右物板ハ紙を引くと物めつとけけたる

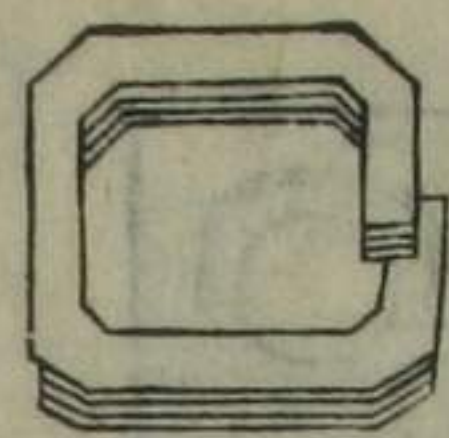
一枚二折小口



は雲のぐとくひとたさつる也

右用板右部とたささどがぐくのぐとて

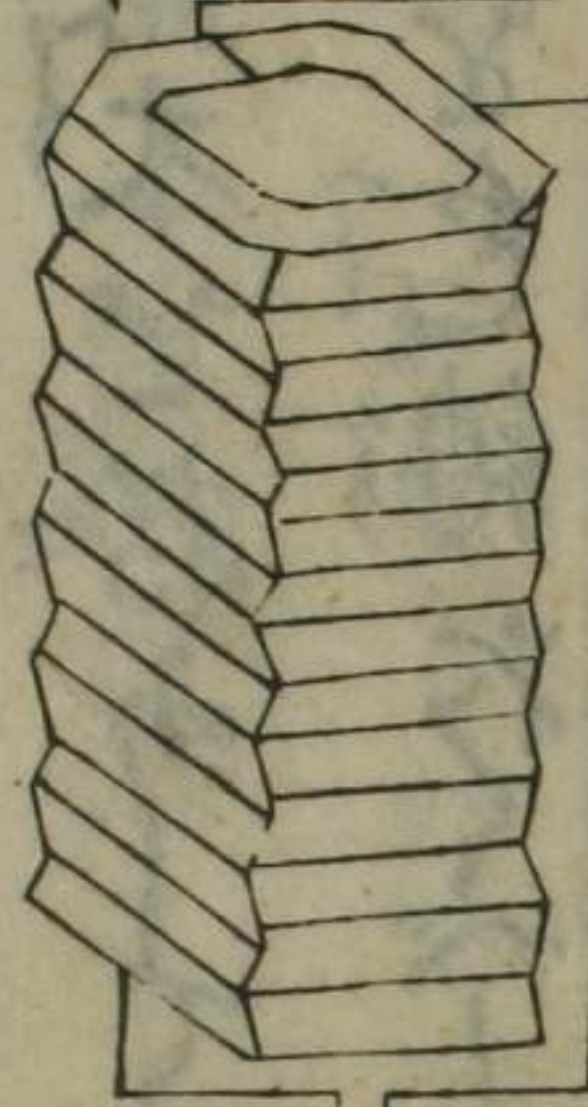
四角よから板より出せば角のそこの板より



かくのぐとく四角よから板より出せば角とけり
あておえながう片のみやくをさぐく引出せば角
おめふく引出さるなり

右のぐとく四角よ物らさどぐと見さいたの場と

まて一垂
のりあて
まてま
なほ



此上下へろやとつけ右の場らさうらの
まはくふなり

右のぐとくはとち袖の場らさる提焼とかり。重

ふき

写物とさるに焼せ光と能さる法

一行焼とくろま紙めくると焼口計机のよと

照やぐやくべー光つとく氣散乱せたりてま好

冬ふゆの月つき燻たぐ草くさかきうぬ法ほり

一ひとさざみさざもぎもぎ冬ふゆ月つきちかちかりりままくく粘ねりはは成なり湯ゆ。
靴ひきの口くちと切きり。其その中うちへ入いれ。塗ぬりよよははははのの足あしををかかけ
塗ぬりべべ。たたばばのの若わかききと出い出で。志し免めんりりををててうう

切きり落おるる指ゆびと接つ法ぽう

一ひと蘇そ木ぎと粘ねりああて指ゆびの口くちははううつけ。接つ合あ。蚕ま繭ぼに
てとと色つ縛くわわわくくべべ。救きう日にああて。舊くわうののどどくくああも

痕わがが。又またびび方かためめくく刀かたな傷きず矢や傷きずをを付つけててうう

白しろ牡丹ぼたんののささとぬぬ法ほり

一ひと白しろ牡丹ぼたんかかれれううををとと。硫い黄おうととりり。ささのの糸いとへへ
洗せんれれハハ。白しろかかるる也也

顔かほをを是こゝれれ勝かちととななとと法ほり

一ひと芒かぎのの液えき汁じゆ。抽ひのの酢す酒しゆ。右みぎ三さん味み味みももよよ合あてて。ささくくとと也也。
上かみ塗ぬりてて勝かちをを付つけべべ。肌かわをを和なよよととるる。其その也也。但たゞ者もの六む粘ねり出い出で

万世必毒



疣の洗茶

一 疣の方よ出来しうとそを敷多し〜く灸もぬ
 が〜まよち。たごよの煮汁ぬ〜度々洗屋。

治る事ぬかり

松れ枯と治る法

一 松れ久かどぬ〜かきんととらよち。蛤れ煮
 汁と根へ度々〜常ぬこ〜ぬ。

養色能なり也

大酒の味は保養等酒は解ぬ茶

一握なく大酒せんときる時を枝柿と二に破て

内の方と胸の内へ去くとあててうへは後帯は

とべー酒氣と胸中より引く毒よわさう

妙也酔醒く其様と五指べー其酒のあか

るなり又酒のまんときる時を数と二に食

べー酒は酔事なり

魚毒酒毒と清茶

一橄欖其まぐらひ食べー魚毒酒毒を解

酒は解と醒と

人馬を合の方

一梅子 何れどあとも他中梅子

本養生も二日ありよ本より多くと病なりと

万世必書

皮と去て薑擦めくまらして。核と去て。そのと絞
 て。板より粉。日ふ干。よふとかきまらる。附。右れ
 絞あけを加くて又干あべー。度あく右れまらして。
 絞あけをまらまらぐ干あべー。但其間竹篋たけ中
 粘のりとあまごまら。印おと押おべー。かくのまらま
 きち。梅酢うめをら附つかよま。祿ろくをら出でく。粘のりのま
 らなり。と後板うれまら。うまら。押おつげまら。

干て。紫令し後ごのまら。切き並なべー。人馬ひともまら。是
 合あまら。大たい火かれ。煙えんの内うちへまら。一ひと後ご口くちは合あまら。
 煙えんよむせだ。是こまら。事ことなり。妙方めう也。

癩瘡たじと生本いままへ移うつ呪まじ

一ひと癩瘡たじのまら。小こ刀かたなめく。こまら。其そのまら。右みぎれ。小こ刀かたな
 めく。賊ぞくの字あと書かく。武ぶの字あれ。点てんと樹じゆ木もへ
 ううめく。其その小こ刀かたなと並なまら。まら。並なべー。其そのまら。

癩瘡たじと生本いままへ移うつ呪まじ

本へ移なり

高申は往來する用心

一、小國筋とて大宮此中と往來するに版と
焼く耐は浸し。瓦と日ふ干かしのぞくさま
事、みよ度とて干とく懐中とて大宮
此中みくも。二三十粒びく喫さる。風をよ中
半なく。又紅の縮ぎ色とて懐中して。途中

みく。度とて是と出て見べし。新のぞくせられハ。
人此家内々々。其佐物とて見れし。不測也
とてわくせとて。眼力とて。中々

狐はおそる神符

一、狐屋の上なく。其あるひの芽屋筋など
揺よハ。梁よけれと張座べし。又狐つまなど
ある。此れとて。手めくも指めくも。志りし

万世必事

拾へ。その去事妙也。此符と書い事。
精進潔斎して。誠心と云く。去て。此符を
功なり

飛早阜々弓山鬼明王

抽実のなるを止ら。多かり。此法
一年く。成熟する。抽れ。故をなく。なるは
とあり。らる。木は肥る。ら。也。根の去。除れ。や

うと。く。其寸と。置よ。して。その。あ。ふ。ふ。と。ふ。
乃。方。り。裏。表。へ。穴。と。掘。へ。大。木。な。は。
一寸。四方。少。也。一寸。四方。多。也。木。よ。夜。ぐ。て。鬱。
層。一。翌。年。ら。り。大。さ。よ。抽。子。と。ゆ。ふ。り。の。也。

令。瘡。よ。蛇。蜈。蚣。の。付。ら。と。除。法

一。令。瘡。よ。蛇。蜈。蚣。は。け。く。事。も。若。者。が。く。状。
厚。汁。よ。蜜。く。抹。音。と。少。入。く。疥。と。洗。た。し。

再るに

酸漿子貯極

一ちうづき皮もよ。魚よく赤くらと。其月
去用の井の水は清く。赤く。又あを
べ。朝のぞく。外のか。砂のぞく。遠
ちうづきよ。あも。皺く。べ。て。て。

脱肛の入湯極秘傳

一脱肛久く入かたく。或ハ度く出く。後茶を
かたきよ。ち。蕞菜と葉。て。湯と。べ。忽入
事。あ。妙也。入湯の。心と。付。べ。あ。ま。り。ま。よ
入。ぬ。ぬ。氣。よ。り。ま。よ。の。ハ。純。入。ま。る。よ。あ。る。脱。肛
と。が。け。湯。よ。ひ。と。べ。

血ととじる呪

一途中か。と。茶。か。も。付。血。血。出。く。や。が。た。ま。

ふち。其人のむらよ直るて。その陰囊と。か
か。推とつら。居。其。その。えの。血
とま。ぶ。なる。

表具は糊かめん魚と虫と法

一表具糊かめん魚く。百八の珠敷ゆく。裏
よりと。つら。ま。る。と。糊味。能。ぬ。ぬ。
その。ま。りの。業。

一紙と口重。物。酢。浸。その。ま。りの。と。よ。あ。て。
其。と。より。下。こ。た。ゆ。わ。ど。焼。の。と。あ。く。扱。抽。の
扱。と。生。黒。黄。色。三。ふ。ふ。ふ。て。糊。交。分。
ま。金。り。め。なる。

旗蚊帳の法

一旗臺の油と本綿糸よ。く。引。て。宿。中。裁。伏
くら。胸。の。と。よ。一。尺。む。かり。と。ま。ま。く。よ。つ。ら。外。
万世必事記下

何程蚊多ても。穴間口方を来らざる也

毒蛇の尻より石はる根

一もりんまでいん。とらふ石也。和ゆく出石も子。

毒蛇の尻より石はる根。根の核はくゆく。

角也。ゆしてうらむ石也。一切毒虫螫咬らるよ

分くゆく。毒を回ち。其石より吸付くも也。

毒をゆきハ。おのづから毒。先救置らるる汁也

まきり刺く血と出。石とこまきりおけ付まら。

まらけくなら。即時將痛ももろくかゞん毒

そそて石もなれらる時。去石と。乳けよ浸せぬ。

沫出ふなり。かのでくせむハ。石も用よたは

瘡疹せよ。流石良。清るをさる方

一瘡疹せよ。とらふ時を。生草辭式。あせけ

入み外よ。黄い。清水さきこ。必清事なり

万世必毒丸下

蚊巻火の方

一 松本の粉 三升

松本の粉 六合

榎木の粉 六合

薰陸 五匁

蒼朮 五匁

右 交合して紙ゆく蠟燭の形よ袋と拵。其
中へ右の粉とほりて。幅巻よ立く。蒸へ

其の厚り紙ゆく拵

一 炭 一匁

炭の粉

二匁 蒸焼して

海羅

煮て一匁

右 三色をり合。常升炭席とをりてよく縮く。こ

よかりをど。炭紙ゆく。締めとくぬさき紙ゆ

て。其の長さよ。紙幅巻立く。常の炭紙より少

おほく拵。能干て二巻。炭と引。其よへ。炭とよく

まりて炭と交く。刷毛ゆく引く干へ。拵

漆ゆく一通。其よと星り漆ゆく能塗て

う。たりよ竹分付を。あゆく志り。竹分付

く破多事なり

秘傳淡紙の掛紙

一 葛糊 汁椀一盞 生淡 五よ一盞 水膠 月

右二色をり合 種糊ゆて

二番淡 五升 水膠 汁椀一盞

右二色合く紙と合ふを糊よむ

二番淡 五升 水膠 汁椀一盞

右二色合引乃をゆと此引糊二色通引
くろく

化痰膏と云疼切方

一 氷砂糖 五升 生姜 足合ふ 姜擦ゆくまらて

右砂糖あつゝの稠ゆく解 生姜と入

とくと煉は先かたく知る時 葛の粉

ゆへへあけくさる能ふどにくだき



壺へ入るべし。但火かきつよければ、
 かり。蒸氣は出まかゆふものなり。
 熱れは出まかゆふものなり。
 蒸氣を去るは、
 一うぐゆるりの通筋と掘る。薬を
 入とく。毎とわが事なり。

泉水此魚の高と治る方

一 泉の魚。夏月の濁る。或ハ毒小あり
く。死見とさるふ。菊の葉とさりて其汁
と飲むべし。去らして。腰ぎらうごけを治
せむと云事なり。物也。又挽茶と只入り

如神目洗茶秘方

一 艾 一 握りにて火と灸。その煙と茶碗よと焚くを
あり。蓋し。やどやく。香のなかりと洗くを

秦皮 目木 け二味とけつ

右のりどされ。煙より水入合。ぬる茶とむ
くろぐ。一りやど焼返し。右の水まで解合也
右二味の本汁。出ふ。付。わわ。り。炭。皮。も。洗
但。眠。付。ハ。わ。く。も。な。り。右。の。香。ハ。一。家。了
秘。一。を。予。功。能。甚。し。き。妙。方。ハ。傳。文
して。今。此。書。の。の。と

万世必書

吃^キ逆^{サカ}二三日も出て止^やむと治^ちさる方

一 煮^にうり二三日も出^でくや^やむが^がな^なま^まよ^よち^ち藕^{すずのせん}粉^{こな}を

白^{しろ}湯^ゆを^をた^たて^て用^{もち}べ^べ一^一お^お高^{たか}の^のぐ^ぐく^くふ^ふかり^りて

度^{たび}く^く出^でる^るよ^よう^う

消^{しょう}類^{るい}は^は血^ちの^の付^{つき}ら^らと^と洗^{せん}じ^じて^て治^ちす

一 治^ち類^{るい}洗^{せん}が^が沈^{しん}み^みの^のよ^よ血^ち付^{つき}ら^らよ^よち^ち折^かえ^えよ

多^{おほ}く^く少^{すく}入^{いれ}こ^こよ^よ治^ちの^の血^ち付^{つき}ら^ら両^{りやう}の^の方^{かた}水^{みづ}

結^{むす}の^の上^{うへ}を^をう^うき^きわ^わが^がな^など^どよ^よま^ま一^一扱^さき

き^きわ^わが^がり^りら^らあ^あの^の上^{うへ}本^{もと}綿^{わた}核^これ^れ灰^{はい}と^とう

か^かけ^け一^一血^ちの^のう^うべ^べ右^{みぎ}の^の灰^{はい}を^をあ^あよ^よふ^ふ事^{こと}也^{なり}

一 切^{みな}箱^{はこ}類^{るい}張^{はり}貫^{ぬき}細^{さい}工^く仁^に扱^さ

一 何^{なに}も^もく^くも^も液^{えき}貫^{ぬき}を^を扱^さん^んと^とあ^あの^の箱^{はこ}の^の摸^もと^と板^{いた}を^を扱^さ

扱^さら^らは^は方^{かた}底^{そこ}と^とる^る内^{うち}は^は液^{えき}本^{もと}と^とま^ま一^一け^け換^かの^の上^{うへ}紙^{かみ}と

あ^あ張^{はり}よ^よ竹^{たけ}と^と一^一遍^{へん}海^{かい}羅^ら派^{はい}中^{ちゆう}紙^{かみ}と^とあ^あは^はせ^せ付^{つけ}べ^べ一^一反^{はん}

万世必事先下

七四

古と何やどめくも。水は浸座能くたき紙とこれ
 ごとくして。毛とあり濃のうとさめく移る合右
 二通より一方紙の上へ。びりか紙は引也厚は好
 紙よりまじり。げと又固極紙ゆく二通やど張日
 乾て。上へ生濃二通やど引。げとさうり。ぬる感
 ちあんゆると等よまじり。と張して後内の摸の
 張本とまじり。摸とまじり。けとらぬき

細工を造作あて。悉くを箱壁損むる事なり

なるのつきまじり くのうら
 一 菱月氷とを中せしむ 扱法 但煮凍むけ法と和

なるのつきまじり くのうら

 一 菱月氷と扱んとおせしむ。網の懸湯とひくまで
 必せ。口と能洗ぬ。より水け入さる扱めて。井座へ
 かりと付沈め。日た又ち一日かど。座よりと下

 くのうら 二はり せり

 きて中の氷よ。おもかろる事なり。菱中煮凍と

 けり くのうら

 扱ふに。葛かど入ふよ。おもかろるけ法と用む。

五〇
玉柄とく出来たり

袂がふた二百枚と同一枚人ふゆを。
目と付をせ。色はふにゆりよ。定の人よ
切まぜさせ。袖もあへう。何せとまじり

一右のくせんとあら。袂がふた。又い。常れあつた
あくも。い。あ。く。よ。下。と。さ。さ。く。定。物。垂。て。た。の
よ。よ。ろ。せ。其。中。と。扱。め。く。は。紙。出。し。何。色。紙。と。も。

